

- 1 単元名・教材名 変身する食べ物！博士になって本作り～書き方の工夫をいかして～
「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」
- 2 児童の実態と本単元の意図
 - (1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は学習指導要領〈知識及び技能〉の(2)イ「比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うこと」と〈思考力、判断力、表現力等〉の「B書くこと」(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方

を工夫すること」、「C 読むこと」(1)ア「段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」を受けて設定している。

身に付けさせる資質・能力

- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する力
- ・段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉える力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第1次では、学習の見通しをもたせる。

まず、単元名とリード文を読み、学習目標を確認させる。次に、写真を見せながら範読を行い、説明文の話題の概要を掴ませる。その際に、「大豆以外にもすがたをかえる食材」を想起させ、自分が選んだ食材について分かりやすく書けているか栄養士に読んでもらい、ここにこのルーム前に掲示することを伝え、目的意識と相手意識をもって学習に取り組めるようにする。さらに、栄養士の感想をもとにして自分の書きぶりを見直し、1冊の本にまとめていくことで、読み手に分かりやすい文章を書こうとする意欲付けをしたい。その際、担任が作成した大豆以外の食べ物についての読み物を見せて、学習のゴールの見通しをもたせたい。

第2次では、本文をくわしく読み、読み手に分かりやすく伝えるための書き方の工夫を見つけていく学習をする。

初めに、段落を確かめ、「初め」「中」「終わり」の文章構成を捉えさせる。その際、「すがたをかえる大豆」では、「初め」の文の中に「問い」にあたる部分がないことをおさえることで、話題の中心が何かを考えさせたい。また、大まかな話の流れを掴ませるために「中」の本文に書いてある大豆の姿の変え方を表す「にる」や「いる」といったキーワードを見付けさせて、文章の全体像を確かめさせる。

次に、前時に学習をした「にる」や「いる」といった調理の仕方に用いる語句を国語辞典で調べさせ、内容の理解を深めさせることと同時に、児童が日常の中で使える語彙を増やしたい。さらに、「初め」に書かれていない「問い」の文を考えさせることで、次時の学習の際、「中」の各段落から大事な文を探し出すための手立てとしたい。問いの文を考えにくい時には、すがたを変える大豆の工夫を表す言葉が「はじめ」の「おいしく食べる工夫」につながっていることに注目させて、「問い」の文を考えさせる根拠にできるようにしたい。

そして、「初め」の「問い」の文を受けて、「中」の文章が書かれていることをおさえ、各段落の答えに当たる部分を見付けさせる。その際、各段落の工夫に注目して、「中」がどうしてもその順序で書かれているのか考えさせる。大豆の形やすがたを変えるときの手間を本文や写真から見付けさせて、「中」の並びの理由を考えさせていく。また、事例の順序に合わせてつなぎ言葉が用いられていることをおさえて文の書き方を学習していく。

ここまでで学習したことを振り返らせながら、児童が興味をもてる食材を探す活動に入っていく。まずは、筆者の説明の仕方の工夫を改めて確認させる。そして、説明文を書くことと自分の興味とをつき合わせて、どの食材にするか選ぶために、複数の科学読み物を読ませて、感想を交流させる。友達の話聞きながら、どの食材について説明したいか関心を高めさせていきたい。

第3次では、筆者の書き方の工夫を用いて「書く」活動をしていく。まずは、食材を決めて調べたことをジャムボードにまとめさせる。その際、段落の中心になる「食べ物がすがたを変えるための工夫」を考えて付箋機能に記入させる。児童は他の人が知らない難しいことや初めて知ったことを事例として多く取り上げようとすることが予想されるため、筆者の事例や写真資料の使い方を振り返らせながら科学読み物で情報を集めさせていきたい。

次に、ジャムボードで付箋を動かして整理しながら、事例の順序を考えさせる。順序の意図が相手にもきちんと伝わるか、読み合っ確認させ、より分かりやすい説明文を書くことを目標に話し合わせていきたい。順序について考えた後は、下書きを行い漢字や文字が正しく使われているか確かめてから清書をさせていく。

最後に友達の記事の発表を聞き、栄養士に読んでもらう代表の説明文を決める。代表の説明文のどのようなところが分かりやすいかを考えさせたり、栄養士に感想をもらった説明文と自分が書いた説明文を比較させて、似たように書けたところを探したりすることで、上手に書けたところを見つけて、まとまった文章を書くことに自信をつけさせたい。

3 研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』
～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け（語彙力）、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力（表現力）」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

仮説①

単元を通して付けたい資質・能力を明確にし、その力を付けるための言語活動を設定する。言語活動（学習のゴール）に向けて、主体的に学び、学ぶ楽しさを味わうことにより、生きて働く力が育つであろう。

〈 手だて 〉 ○本づくりをするために分かりやすい文の書き方を知る言語活動

学習のゴール「博士になって本をつくろう」に向け、主体的に学ぶための手だてとして、児童の調べたいという思いや上手に説明したいという思いを大切に学習活動を設定する。そのために、筆者の書き方の工夫を確かめた上で、自信をもって書く活動が進められるようにしていく。また、どの学習過程でも、上手に書けているか栄養士に読んでもらうという相手意識をもたせて、読み手に分かりやすく書く必要性を感じさせながら書き方の工夫について考えていく。そして、学習内容を自分事として捉えて主体的に学び、栄養士から代表児童にももらった感想をもとに、自分の説明文の書きぶりを見直して、部分的にでも書けたという達成感を味わわせ、みんなで学ぶよさを感じ、生きて働く力が育つだろうと考える。

仮説②

単元を通して、相手意識・目的意識をもった学習活動を工夫する。協働的に学び合う場を設定し、互いの思いや考えを主体的に伝え合い、考えを広げ深めることにより、生きて働く力が育つであろう。

〈 手だて 〉 ○友達との対話を通して、自分の書いた説明文の順序性を考える活動

説明文を書くために集めた情報をもとに、すがたをかえる食べ物の工夫の事例を、どのような順序で書くのがよいか話し合いを行う活動を設定する。自分の思いに沿って並べた文章を、友達との対話を通して、分かりやすく書けたか考えたり、自分の書き方と友達の書き方を比較してよりよい説明文を書こうとしたりする学習をしていく。その際、栄養士に読んでもらうことやここにこルーム前に掲示し、他の学年にも読んでもらうことを意識させる。また、同じ食べ物を選んでいる児童同士でも、調べた内容によって言葉や文の書き方に違いがあることをおさえる。そうすることで、自分ひとりで考えるよりも複数人の考えが入ることによって語彙を増やしたり、上手な書き方が分かったりするなど、幅広い考えを知ることができることに気付かせ、話し合うよさを感じて考えを広げ深めることができるだろうと考える。

4 単元の目標

- (1) 比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使うことができる。 〈知識及び技能〉(2)イ
- (2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉B(1)ウ
- (3) 段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合うとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元で取り上げる言語活動

- ・自分が調べたいと思った食べ物について調べたことをまとめて、栄養士の名倉先生に読んでもらう。
(関連：B 書くこと 言語活動例ア)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使っている。 (2)イ	① 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫しようとしている。 (B(1)ウ) ② 「読むこと」において、段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (C(1)ア)	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合うとしている。

7 単元の指導と評価の計画 (全15時間)

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○単元名とリード文から、学習の到達点を確認、単元全体の見通しをもつ。	○学習課題の確認 ○単元全体の見通し ・すがたをかえて食品になる材料についての説明例の提示	○大豆の加工食品の実物や写真などを提示することで、説明文の概要をイメージとしてつかませる。 ○学習のゴールとして「栄養士の名倉先生に自分が書いた説明文を読んでもらう」ことを伝える。
2	2	○段落を確かめて文章全体の組み立てを捉える。 ○「中」で挙げられている事例を言葉に注目して探す。 ・一人学び	○初め・中・終わりの段落の構成 ○段落構成とその役割の大きな内容	○初め・中・終わりの役割をおさえる。 ○初めに問がないことをおさえる。 ○中の段落について短い言葉で書き抜かせる。 【思考・判断・表現②】 発表・記述 ・中で挙げられている事例を短い言葉で抜き出しワークシートにまとめている。

3	<p>○すがたを変える工夫として扱われている言葉を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人学び <p>○文章の説明内容にあった「問い」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習 	<p>○食材に手を加えるときに用いられる言葉やその意味</p> <p>○文章全体の話題の確認</p>	<p>○意味を正しく理解して言葉を用いる大切さをおさえる。</p> <p>○日常生活の中につながる語彙を増やす。</p> <div data-bbox="1058 338 1453 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能】 <u>発表・記述・観察</u> ・辞書を用いて言葉の意味を調べ、ワークシートにまとめている。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <u>発表・記述・観察</u> ・「初め」や「中」から話題を捉え、そこから筆者の書かなかった問いを考えている。</p> </div>
4	<p>○「中」の段落の中心になる文を見つけて、大事な一文がどこに書かれているか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・一人学び 	<p>○初めと中の段落の関係</p> <p>○各段落の中心になる文</p> <p>○段落の中心は初めに書かれていること</p>	<p>○中心になる文を見付けさせるときに、教材名に立ち返って、すがたをかえるための工夫を探させる。</p> <p>○見つけた工夫を短い言葉でまとめさせる。</p> <p>○段落の中心の一文の位置を変えて、最初に書かれている理由を考えさせる。</p> <div data-bbox="1075 1205 1471 1420" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 <u>発表・記述</u> ・各段落の中心になる文を見付け、叙述を基に順序性を考えている。</p> </div>
5 本 時	<p>○「中」の中心になる一文をもとに、筆者の書き方の工夫を考える。</p>	<p>○分かりやすい説明をするための例の挙げ方</p> <p>○写真資料と文の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大豆の形を残した物から形の無い物の順序で説明されているという順序性 <p>○つなぎ言葉</p>	<p>○写真と短冊を用いて、中の段落の順序性を考えさせる。</p> <p>○「次に」などの順序を示す言葉に注目させる。</p> <div data-bbox="1082 1713 1477 1989" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 <u>発言、記述</u> ・段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。</p> </div>

6	<p>○ここまでの学習を踏まえ、筆者の説明の仕方の工夫をまとめる。</p> <p>○他の食べ物を扱った本を読み、内容や説明の工夫について感想を伝え合う。</p> <p>・グループ学習</p>	<p>○筆者の説明の仕方の工夫</p> <p>○いろいろな食材の科学読み物</p>	<p>○段落相互の関係と中の順序性や、それを表す言葉についてまとめさせる。</p> <p>○食材の科学読み物を読む時間を確保し、いろいろな中から自分がかもっと詳しくなりたい食材を選ばせる。</p> <div data-bbox="1054 479 1453 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 記述</p> <p>・筆者の説明の工夫をもとに科学読み物の書き方の工夫を見つけてワークシートに書いている。</p> </div>
7	<p>○ここまでの学習を振り返る。</p>	<p>○科学読み物での調べ方</p> <p>○奥付（初出）</p>	<p>○既習の「科学読み物」「目次」「さくいん」などをおさえる。</p> <p>○引用するときに見るべき部分として奥付を教える。</p> <div data-bbox="1054 943 1453 1160" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習する態度】 観察・発言</p> <p>・文章を書くために、本やインターネットを用いようと考え、自分に合う物を選択している。</p> </div>
3 8 ～ 10	<p>○これから学習する内容に見通しをもち、今後の学習計画を立てる。</p> <p>○自分の調べたい食材を決めて調べる。</p> <p>・一人学び</p> <p>○調べた内容を整理する。</p> <p>・一人学び</p>	<p>○書く活動から栄養士に読んでもらうまでの見通し</p> <p>○説明文を書くための情報の集め方（集めるための視点）</p> <p>○読み手に分かりやすい文の書き方</p>	<p>○第5時のワークシートを用いて分かりやすい説明文にするためのポイントをおさえる。</p> <p>○集めた情報はジャムボードにまとめさせていく。</p> <p>○自分がよいと思った事例だけをあげるのではなく、読み手にとって身近で分かりやすくなるように情報を比較したり、分類したりしながら整理させる。</p> <div data-bbox="1054 1783 1453 1998" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 観察・記述</p> <p>・集めた情報を比較・分類し、分かりやすい文を書くために整理している。</p> </div>

3	11 ～ 13	<p>○組み立てと例の書き方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習 <p>○文章の下書きをする</p> <p>○清書をする。</p>	<p>○読み手に分かりやすい説明文を書くための順序・段落構成</p> <p>○見直しの仕方</p>	<p>○順序性を示す言葉を付箋で追加し、自分なりの順序を考えさせる。</p> <p>○ジャムボードで順序を組み立て、ペアで交流させる。</p> <p>○ジャムボードの付箋を基に、説明文の下書きをさせる。</p> <p>○できあがった文はペアで読み合い推敲させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <u>観察・記述</u> 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合うとしている。</p> </div>
	14 15	<p>○完成した説明文をクラスで発表し、分かりやすいと感じた作品を投票で選び、よく書けたものを2点決める。</p> <p>○栄養士から代表者にももらったコメントをもとに自分の説明文を読み直し修正したものをにこにこルーム前に掲示する。</p> <p>○掲示後、クラスでまとめて一冊の本にする。</p> <p>○単元の学習をふり返る。</p>	<p>○分かりやすい説明文の構成</p> <p>○分かりやすく伝えるための読み方</p>	<p>○ムーブノートを用いて、書き上げた文を写真でとり、全体に共有をかけて読み合わせる。</p> <p>○簡単にコメントを書かせて、書き上げた達成感を味合わせる。</p> <p>○代表者の説明文を読んで、自分の書いた文を見なおし、本にしていくために、さらによくできそうなところはないか探させる。</p> <p>○自分の説明文と代表者の説明文を読み比べ、栄養士や他学年の児童が読んだときに分かりやすく伝えるために修正を加える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <u>発表・記述</u> ・友達の書き方のよさや栄養士のフィードバックを基に、自分が上手にかけたことについて振り返っている。</p> </div>

8 本時の展開 (5 / 15 時間)

(1) 目標

「中」の例の書き方やその順序などの説明の仕方の工夫を見つけることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ア

(2) 評価規準

「読むこと」において、段落相互の関係に注目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 【思考・判断・表現②】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
<p>1 前時に見つけた「中」大豆がすがたを変えるための工夫を読みながら並び順を確認する。</p> <p>2 本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○「中」の中心の文</p> <p>○めあての把握</p>	<p>○例に合わせて写真も並べ、写真と文をつなげて捉えさせる。</p> <p>○文の並び方の理由を児童に問い、児童に画像資料や本文の言葉を基にして説明していくように伝える。</p>	<p>3</p> <p>2</p>
<p>㊦ どうして筆者がこのじゅんじょで書いたのだろう。</p>			
<p>3 順序性の根拠を探しながら音読をする。</p> <p>4 筆者の書いた「中」の段落の順序の理由を考える。</p> <p>・ひとり学び</p> <p>・グループ学習</p>	<p>○順序性の根拠</p> <p>○「中」の順序性</p> <p>○つなぎ言葉</p> <p>○画像資料の効果</p>	<p>○画像資料を見て、大豆のもとの形に近い写真からだんだん大きく姿が変わる調理法になっていることを気付かせる。</p> <p>○画像資料と関連する本文中の言葉を見付けさせる。</p> <p>○考えをワークシートに書かせて、グループで話し合いをさせる。</p>	<p>4</p> <p>11</p>
<p>〈期待される児童の反応の例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真は大豆の形のままの物から、形がない物の順番になっている。 ・後の段落にいくほど、文が長くなっている。 ・文が長くなるのは、たくさん説明をしているから。 ・説明がたくさんあるということは、料理の仕方が難しいと思う。 		<p>〈評価場面〉</p> <p>【思・判・表②】</p> <p>〈評価方法〉</p> <p><u>発言、記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・叙述や画像資料を基に順序性を考えている児童をB評価とする。 <p>〈努力を要する状況(C)への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像資料の大豆の形に注目させて説明を考えるように促す。 	

<p>5 全体で交流して、順序性について確かめる。</p> <p>〈期待される児童の反応の例〉 ・筆者は読む人が読みやすいように「見た目が大豆にているもの」から書いた。 ・筆者は読む人が読みやすいように「作りやすいもの」から書いた。</p>	<p>○説明文の読みやすい順序性</p>	<p>○4で見つけたことをもとに、筆者がどのような理由で「中」を並べていたのかをまとめるよう助言する。</p> <p>○言葉でまとめやすいように話型を提示する。</p>	<p>15</p>
<p>6 つなぎ言葉について知る。</p>	<p>○つなぎ言葉の使い方</p>	<p>○つなぎ言葉で、より順序が分かりやすくなっていることをおさえる。</p>	<p>2</p>
<p>7 本時の学習についてまとめる。</p>	<p>○分かりやすい説明文の書き方の工夫</p>	<p>○本時の学習で学んだことを自分の言葉でまとめさせる。</p>	<p>3</p>
<p>㊦ 筆者は読む人がわかりやすいような順序で書いている。</p>		<p>○自分でまとめるのが難しい児童には、話型を提示し、言葉を当てはめて書くことを助言する。</p>	<p>5</p>
<p>8 本時の学習を振り返る。</p> <p>〈期待される児童の振り返り〉 ・分かりやすい順番になるように書きたいと思いました。 ・順番をよく考えて名倉先生に伝わるように書きたいと思いました。</p>	<p>○振り返りの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で学んだこと ○今後の学習の見通し 	<p>○本時のまとめと子どもの振り返りをもとに分かりやすく書くためのコツを知ったことをおさえつつ、書く活動で上手に書けるように意欲づけする言葉がけを行う。</p>	<p>5</p>

9 板書計画

